

# 英語4技能テストのスコアレポートを用いた 学習の有用性—大学生の反応から

小泉 利恵 阿川 敏恵 高橋 閑

---

## Abstract:

### **Usefulness of a learning activity using a score report of four-skill English tests: Analysis of university students' responses in the questionnaire**

Score reports are considered an effective tool for implementing assessment for learning. Previous studies suggest good practices include presenting score reports to learners and conducting concrete activities of using them for their learning. Since empirical studies implementing such activities are limited, the current study examined the effectiveness of an online score-report autonomous-learning activity that encourages learners to reflect on their ability and learning activities. The activity has three stages: (a) providing learners with their individualized score report of four-skill English tests, (b) having them watch a video that explains how to read and interpret the score report, and (c) having them summarize their strengths and weaknesses of their English proficiency and create a plan on how they study English. In the third stage, 230 first-year students at a university responded to a questionnaire, which was analyzed primarily using the text mining software KH Coder. Results of co-occurrence networks based on students' open-ended responses showed that most students accurately comprehended the score reports, updated their understanding of their proficiency, and set their concrete study plans, suggesting the usefulness of the score report activity. Future directions are discussed based on the results.

## Key words:

assessment for learning, score report, questionnaire, text mining, KH Coder

---

## 要 旨 :

スコアレポートとは、テスト結果やスコアに関連した情報を載せた資料で、学習のための評価を行う有効な手段である。それを効果的に用いるためには、スコアレポートの提供とともに、その解説と解釈を支援する活動が必要である。しかし、そのような活動の有用性については十分な実証研究がなされていない。その点を検証する本研究においては、スコアレポートには、大学1年生230名が入学時に受験し

た英語4技能テストの結果と、関連する情報を記載した。加えて、そのレポートの解説ビデオと、学生が各自で行うオンライン自学活動を作成した。活動中の学生からの回答を、テキストマイニングツールであるKH Coderを用いて分析した。その結果、ほとんどの学生はスコアレポートを正確に読み取り、自分の英語力や学習行動を確認し、学習プランを具体的に設定しており、本スコアレポート活動の有用性が示された。本活動の課題をまとめ、今後の可能な方向性について論じた。

## キーワード：

学習のための評価 スコアレポート アンケート テキストマイニング  
KH Coder

## 1. はじめに

テストや評価の結果は、成績付与やプログラム評価に用いられることが多いが、テスト結果を工夫して提示し、学習活動につなげることもできる。教育評価または学習評価の分野においては、「学習の評価」(assessment of learning)だけでなく「学習のための評価」(assessment for learning)を行い、評価を指導や学習の中に位置づけることが重要とされる(西岡他, 2022)。

学習のための評価は、診断的評価やポートフォリオ評価、逆向き設計の中での評価など様々な形がある(京都大学高等教育研究開発推進センター, 2022; 小泉・濱田, 2023)。その中の1つの有効な方法が、テスト結果をわかりやすくまとめたスコアレポート(score report: SC)の活用であるが、その有用性の実証研究は限られる。本稿では、SCを用いた学習活動の有用性を、大学生からのアンケートへの回答に基づき検証する。

## 2. 先行研究：「学習のための評価」とSCに関わる学習活動

「学習のための評価」は、学習者が自らの学習状況を把握し、学習方法を改善するために有用である。学習のための評価には、教員が行うだけでなく、学習者が自己評価や相互評価を行う「学習としての評価」(assessment as learning)も含まれる(Chong, 2018)。「学習のための評価」と「学習の評価」は、形成的評価(formative assessment)と総括的評価(summative assessment)と平行的な概念であるが、形成的・総括的の区分が教員から

の観点であったのに対し、「学習のための」と「学習の」評価の区分は学習者が主体である点で異なるとされる（二宮，2013；国際的視点から見た日本の形成的評価の特徴は Wicking, 2020 参照）。学習のための評価は、学習志向の評価（learning-oriented assessment）として世界中で取り込まれている（Gebriel, 2021）。日本においても、教科に関わらず初等・中等・高等教育において導入が推奨されている（国立教育政策研究所，2023；西岡他，2022）。

SC とは、テスト結果やスコアに関連した情報を載せた資料で、学習のための評価を行う有効な手段である（SC の包括的なまとめは Zapata-Rivera, 2019; Zenisky & Hambleton, 2016 参照）。英語教育において SC は、テスト団体がテスト結果返却時に提供することが一般的で、読み取りや学習を支援する工夫がなされている（Koizumi, 2016）。校内評価においても、定期テスト結果を学習者が自分で SC としてまとめる例や、パフォーマンステストのルーブリックに基づく評価を教員が SC に一部記入し、残りを学習者が完成させる例がある（上山，2014；小泉，2022；文部科学省，2022）。SC は紙上だけでなく Google Sheets などのオンライン上でも提供することができ、継続的に追記していくこともできる（小泉，2023）。

言語学習においては、学習者が自分の力や学習環境をメタ的に認知し、学習目標や、どのような外国語使用者になりたいか、またはなるべきかといった、将来の自己像の実現に向けて、必要な活動を理解し計画し、実際にそのような活動を適宜必要な修正を加えながら継続的に行うことが重要と言われている（Mercer & Dörnyei, 2022）。そのような学習活動の中で、教員による SC の提示は、学習者が自分の現状や今後なすべきことを意識する機会の提供につながると考えられる。

SC を提供することは、学習のための評価の一步ではあるが、先行研究によると、学習者が内容を読み取れなかったり、学習につながらなかったりなど、思うような効果が得られないとの指摘がある（例：Hsieh, 2023）。例えば、Sawaki and Koizumi (2017) は、GTEC (Global Test of English Communication) と英検（実用英語技能検定）の詳細な SC を、高校生と教員がどのように使用しているかを調べた。その結果、合格基準と自分のスコアの相違など一部の情報は読むが、それ以外の情報を詳細に読むことは

限られ、SC の情報を学習や指導にあまり活かせていないことが示された。そのため、学習者向けには、SC の充実だけでなく、提供時期を早めることや、SC に記載された情報を解説したり、記載情報を使った活動を行ったりすることが望ましい。しかし、そのようなSC を用いた活動の実証研究は限られている。上記のような活動が意図通りに学習に役立つ形になっているかを検証し、利点や課題を整理することは、そのような活動を広め、学習のための評価を適切に行うことにつながるだろう。本研究はこの点を扱う。

### 3. 本研究の目的と研究課題 (Research Questions: RQs)

本研究では、2022年度春学期に行ったSCを用いたオンライン自学活動(SC活動)において、学生がSCや関連の活動に対してどのように反応しているかを調べることにより、その活動の有用性を検証することを目的とする。

RQ1: SCを、学生はどの程度正確に読み取れているか。

RQ2: SCから、学生はどのような気づきを得ているか。

RQ3: SCに基づき、学生はどのような学習プランを立てているか。

3つのRQは、SC活動の段階に沿っている。学習者がSCを有効活用するためには、まずレポートを正確に読み取り(RQ1)、その理解に基づいて、今までの認識とのギャップや、自分の英語力の特徴に気づき(RQ2)、その上で次の学習へどのように取り組むかの目標やプランを立てる(RQ3)という流れの中でのRQである。本研究では、上記の学習プロセスが意図通りに行われているかを確認することで、SC活動の有用性を検証する。

## 4. 方法

### 4.1 参加者、カリキュラム、4技能テスト

清泉女子大学の2022年度1年生310名のうち、SC活動を行った者230名(74.19%)の回答を分析対象とした。単位未修得のため1年次クラスを再履修する者や編入生に対しては、SCは提供したが、分析対象からは除いた。

共通英語教育カリキュラムにおいては、英語4技能をバランスよく伸長するための運営がなされている。その特徴の1つは、授業とe-learningを組み合わせることである。授業で4技能を伸ばし、基本授業外で行うe-learningでは、文法・語彙、リーディング、リスニングを集中的に扱い、

自分の時間を調整しながら自律的な学ぶ学習者を育てる意図である。

参加者は、英語 4 技能テストを入学時に受け、その後 SC 活動に取り組んだ (図 1 参照)。テスト実施の目的は、カリキュラムのプログラム評価と、必修科目でのクラス配置を行うため、また学生の英語力向上に役立てることである。リスニング・リーディング (L&R) テストは、TOEIC (Test of English for International Communication) の形式を模した模擬試験 (EdulinX 社が運営) を、スピーキング・ライティングテストは、正式な TOEIC Speaking & Writing (S&W; 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会が運営) を用いた。

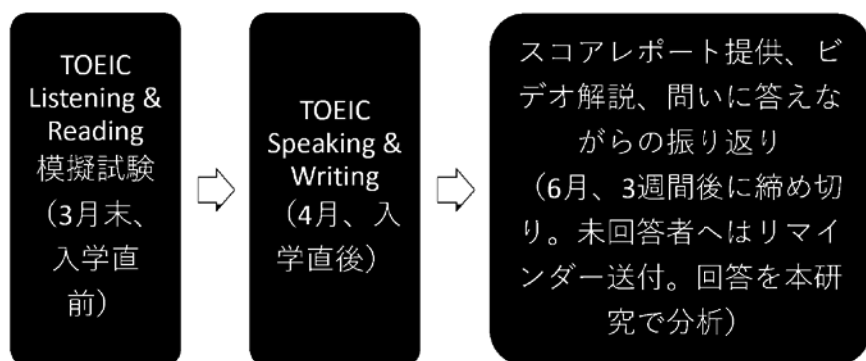


図 1 本研究の流れ

#### 4.2 4 技能スコアレポート (SC)

英語 4 技能テストの SC においては、先行研究で推奨された要素 (Sawaki & Koizumi, 2017 参照) を意識しながら、テストスコアだけでなく、受験者の特徴 (例: 強み、弱み) がわかり、学習アドバイスや就職活動時にも役立つような情報を追加で得られるような形にした (表 1 と表 2 の実例を参照)。SC に載せる情報は、テスト団体が公表した情報を原則として使用した。独自の SC を作成した理由は 3 点あった。第 1 に、今回使用した TOEIC L&R 模擬試験も、S&W も、団体独自の SC が受験後に受け取れるが、学生は複数に分かれた情報の中で自分に関連したものを選んで統合し、理解することは認知的に負荷が高いと考えたためである。第 2 に、学生全体の平均的な情報を配布する方法もあるが、学生によって 4 技能の特徴 (プロフィール) は異なり、それを把握しやすい形で提示するのが望ましいと考えたため

ある (Koizumi et al., 2022 参照)。第3に、学習法や就職活動に役立つ情報など、学生に興味がある情報が既存の SC に記載がなく、オンラインでもアクセスしにくい等の問題が起こりやすいと考えたためである。関連情報を1つの PDF ファイルとして提示することで、学生の理解と思考を支援できると考えた。

表1 スコアレポート (SC) の構成

構成	含めた情報
全体の結果	技能ごとに、スコア、CEFR レベル、次の CEFR レベル到達に必要なスコア、国内大学生平均
結果からわかること	技能ごとに、今できること、もうひとがんばりで、できるようになること、今の熟達度レベル。スピーキングには、音読時の発音レベル、イントネーションとアクセントのレベル
おススメ勉強法	無料のサイトの勉強に役立つ情報 例 : English Upgrader+
一般に必要なスコアや他のテストとの関係	レベルごとにできることのみ目安。TOEIC や英検、TOEFL のスコアと CEFR レベル
技能のレベルごとの、一般的にできること一覧	技能ごとに、レベルに対応した長所と短所
TOEIC スコアを持っていると有利になる仕事と、必要なスコアの例	英語教員、国家公務員、自治体職員、警察官、航空系職員、一般企業の例

#### 4.3 スコアレポート (SC) の解説ビデオと活動

SC の解説ビデオ (約 20 分) では、SC の読みとり方や留意点を解説した。CEFR (Common European Framework of Reference for Languages : ヨーロッパ言語共通参照枠) や「英文を音読するときの発音レベル」(母音・子音の説明を、cut, cat と sea, she の例で説明)、「英文を音読するときのイントネーションとアクセントのレベル」(抑揚・強勢を I' m a student at Seisen University. の例文で説明) 等、用語が難解と思われる点について

表 2 スコアレポートの 1~2 ページ目の例（著作権が関わるものを除く）

TOEIC テスト結果 スコアレポート（清泉女子大学 言語教育研究所）

2022 年 5 月 16 日発行

学籍番号 001（清泉 花子）

問合せ先：[gengo-rcp@seisen-u.ac.jp](mailto:gengo-rcp@seisen-u.ac.jp)

☆全体の結果

	Listening (L)	Reading (R)	L&R 計	Speaking	Writing
スコア	230 / 495	115 / 495	345 / 990	40 / 200	70 / 200
CEFR レベル	A2	A2	--	A1 未満	A2
次の CEFR レベル 到達に必要なスコア	275 / 495	275 / 495	--	50 / 200	120 / 200
国内大学生平均	333 / 495	283 / 495	616 / 990	129 / 200	143 / 200

☆結果からわかること（さらに詳しい情報は、3 ページ以降を見よう）

**Listening**

今できること：ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係があることに關しては、よく使われる文や表現が理解できる。

もうひとがんばりで、できるようになること：仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。

今の Listening 熟達度レベル 2 (4 レベル中)：pp. 4~5 でこのレベルの「長所・弱点」を探そう

**Reading**

今できること：ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係があることに關しては、よく使われる文や表現が理解できる。

もうひとがんばりで、できるようになること：仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。

今の Reading 熟達度レベル 1 (5 レベル中)：pp. 6~7 でこのレベルの「長所・弱点」を探そう

**Speaking**

今できること：一般的な定型の日常のあいさつや季節のあいさつを交わすことができる。

もうひとがんばりで、できるようになること：他人の紹介や、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりを行うことができる。具体的な要求や依頼をするために、日常的・基本的な表現を使うことができる。

今の Speaking 熟達度レベル 2 (8 レベル中)：pp. 8~9 でこのレベルの「長所・弱点」を探そう

今の「英文を音読するときの発音」のレベル Low (Low, Medium, High の 3 レベル中)：発音は全体的にわかりにくい。

今の「英文を音読するときのイントネーションとアクセント」のレベル Low (Low, Medium, High の3レベル中)：イントネーションとアクセントが、ほとんどの場合効果的ではない。

**Writing**

今できること：簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純な情報交換ができる。

もうひとがんばりで、できるようになること：身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

今の Writing 熟達度レベル 4 (9レベル中)：pp. 10～12 でこのレベルの「長所・弱点」を探そう

☆おススメ勉強法

大学の e-learning や英語の授業での課題をまずは集中して取り組もう。その上で、以下のサイトの勉強に役立つ情報（無料）の中から、やってみたい方法を探してやってみよう。

- English Upgrader+ スキルアップに役立つツールや解説記事：  
<https://www.iibc-global.org/toeic/support/englishupgrader.html>
- 大学生にお勧めのスキル別学習法：  
<https://www.alc-education.co.jp/academic/column/2201.html>
- スキル別、CEFR レベル別、学習時間別で検索する英語学習教材：  
<https://www.cambridgeenglish.org/jp/news/view/free-online-ctivities/>
- 今のスコアで「できること」を知り、目標のスコアを立てる：  
<https://www.iibc-global.org/toeic/special/target.html>

☆TOEIC スコアを持っていると有利になる仕事と、必要なスコアの例（英語教員、国家公務員、自治体職員、警察官、航空系職員、一般企業）：p. 13 を見よう

(続く)

も説明を加えた。

SC 活動は、選択式と記述式の回答を求め、付録 1 にある内容を Google Forms のアンケート形式にした。解説ビデオの最後に、「自分の SC」と「Google Forms のアンケート」の画面が両方見える形で活動を進めるよう指示した。

#### 4.4 スコアレポート (SC) 活動の作成と設定

SC 自体や SC 活動の内容や手順は、原案作成後、著者 3 名で、特にわかりやすさの点から確認し、修正を行った。SC は、Word ファイルを「差し込み文書」として、Excel から必要な情報を差し込み印刷にした。その後各学生



のファイルを大学の Learning Management System (LMS) である「学びの泉」を使って、共通英語の 1 クラスである、First-year English: Seisen Studies in English または First-year English: Listening & Speaking のクラス内に「レポート返却」、「ビデオ視聴」、「SC を読み込みながらアンケートに回答」という 3 つのタスクを設定した。

学生は Google Forms のアンケートにアクセスし、SC 活動を行った。活動の期間は 3 週間設けた。授業担当教員には、授業中に本活動について触れることを依頼したが、授業中にどの程度扱うかは教員に任せた。

#### 4.5 分析

研究課題に関わる問いのみを分析し、問 9, 13, 15 は除いた。必須回答の回答数は 230 名だったが、それ以外は選択可の問いとしたため、人数が異なっていた。各回答者数を分母として割合を算出した。

アンケートの選択式回答は各選択率を算出して解釈した。記述式回答はテキストデータを探索的に分析し、コンピュータを用いてパターン発見を行うテキストマイニングの手法を用いた。大木 (2018) によると、テキストマイニングの長所は分析の実用性と客観性であり、短所は「重要な情報を見逃す危険性」と「テキストの内容を誤って解釈する危険性」があることである (p. 259)。それを避けるため、分析後に実際の回答を読みながら解釈のゆがみがないかを確認した。テキストマイニング分析では KH Coder (<https://kncoder.net/>) を用いた。手法は KH Coder 付属の解説 (<https://kncoder.net/tutorial.html>) と大木 (2018) に基づいた。

テキストマイニングの分析前にはスクリーニングを行った。その際、問 6 の「意外な技能は何か」の問いに対して、「なし」と回答し、問 7~8 で記載があった場合には記述を削除した。同様に問 12 の「どの技能を特に伸ばしたいと思うか」に対して、「なし」と回答し、問 13 と 14 で記載があった場合にはそれを削除した (他の修正は、付録 2 参照)。

記述式回答の分析では共起ネットワーク (co-occurrence networks) を用いた。デフォルト設定の修正は、「集計単位」を文に変更や、「品詞による語の取捨選択」で否定助動詞を追加、「強い共起関係ほど濃い線に」と「グレースケールで表現」を追加したことだった。「最小出現数」につい

ては、回答数が問いごとに異なっていたため、適切な分析のための数を調整し、「現在の設定で利用される語の数」が25以上になる直近の最小出現数にした（問4の最小出現数 = 7（回）[利用される語数 = 27（語）]；問7 = 5 [26]；問10 = 6 [23。5と設定すると32語が抽出され、解釈が難しくなるため6と設定]；問11 = 6 [27]；問14 = 11 [26]）。

## 5. 結果と考察

### 5.1 RQ1：スコアレポートを、学生はどの程度正確に読み取れているか

正解がある問1～3と問5を分析対象とした（表3参照）。問1では「自分のリスニングレベル」を尋ねた。例えば、SCでリスニングのCEFRレベルがA2とあり、回答で「A2」と回答した場合に正解とした。その結果、92.61%（213/230\*100）とほぼ全員が正解していた。正解しなかった7.39%のうち、SCに記載があるところを「わからない」と答えた者が3.91%だった。不正解の3.48%中には、SCでB1のところを「A2」と答えるなど、自分のレベルより低く回答した者が1.30%だった。

表3 正解がある問いへの回答（%, N = 230）

	問1（自分のリスニングレベル）	問2（レベルが最も高かった技能）	問3（レベルが最も高かった技能）	問5（特徴の説明が見つかったか）
○	92.61	76.96	81.30	97.83
×	3.48	20.43	17.39	2.17
わからない	3.91	2.61	1.30	--

問2では「4技能のCEFRレベルの中で、CEFRレベルが一番高く、得意だった技能」を、問3では「CEFRレベルが一番低く、苦手だった技能」を尋ねた。その結果、正解した割合がともに76%以上で望ましかったが、不正解がそれぞれ20.43%、17.39%と、一定の割合であった。この不正解では、3つの技能を挙げると正解のところを、1つのみ挙げた者が多く見られた。これは該当技能の見落としも考えられたが、「レベルが一番高い」と「得意」な技能は異なると解釈し、「レベルが一番高い」技能の中から自分で「得意」と考える技能を回答したためとも考えられた。これは問いの意図とは

異なっており、その解釈を避けるためには、今後は「レベルが一番高かった技能は何か」と問う方が望ましいかもしれない。さらに、CEFR は A1, A2, B1, B2 と行くにつれてレベルが上がり、その点はビデオで解説したが、成績の A と B だと A が優れているため、A2 の方が B1 よりレベルが高いと解釈したと思われる回答も見られた。

問 5 では「該当技能の熟達度レベルの特徴について、自分のレベルの特徴（長所・弱点）の説明が見つかったか」と尋ねた。97.83%が見つかったと報告したが、残りの 2.17%（5 名）は「見つからなかった」と回答し、そのような学生には読み取りの支援が必要と思われた。

## 5.2 RQ2：スコアレポートから学生はどのような気づきを得ているか

本節では、RQ2 に関わる問 4, 7, 10, 11 の結果をまとめる。問 4 では「SC の自分の CEFR レベルを見て、どう思ったか（例：意外だった、予想通りだった）、その理由は何か」を尋ねた。回答を共起ネットワークで分析した図 2 から、以下のコンセプトが取り出せた。これにより、既存の認識と、新たな点の気づきが見て取れるだろう。

コンセプト：「取れたスコアは低いと思う」「予想通りの結果で、英語、特にスピーキングが苦手でできない」「リスニングやライティングはスコアが意外に高く、一番得意と出た CEFR レベルに驚いた」

実際の回答例（すべて「である」調に統一）：「スピーキングのみが低いことは予想通りだった。テストとなると頭が真っ白になり、全く答えられなかったからだ」「リスニングやリーディングは選択問題なので点が取れていて実力が必要なスピーキングとライティングは点が取れていないから」「ライティングは私の得意分野なので一番高いのは納得だが、リスニングは自分の一番苦手な分野なので、ライティングと同じレベルで驚いた。逆に、スピーキングとリーディングは自分の比較的得意な分野なので（特にスピーキング）、成績が悪かったことにショックを受けた」

問 6 では「意外だと思った技能は何か」を尋ねた上で、問 7 で「なぜそう思うか」を尋ねた（図 3 参照）。その結果、以下のコンセプトが得られた。実際の回答では、意外な点について詳細に述べられていて、今までの認識と SC の情報のギャップから気づきを得られたようだった。

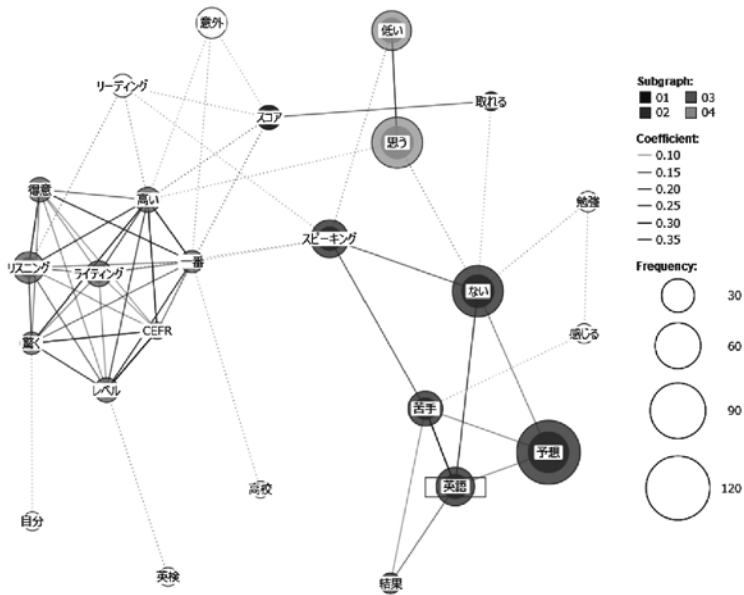


図2 問4の回答の共起ネットワーク (N = 230)

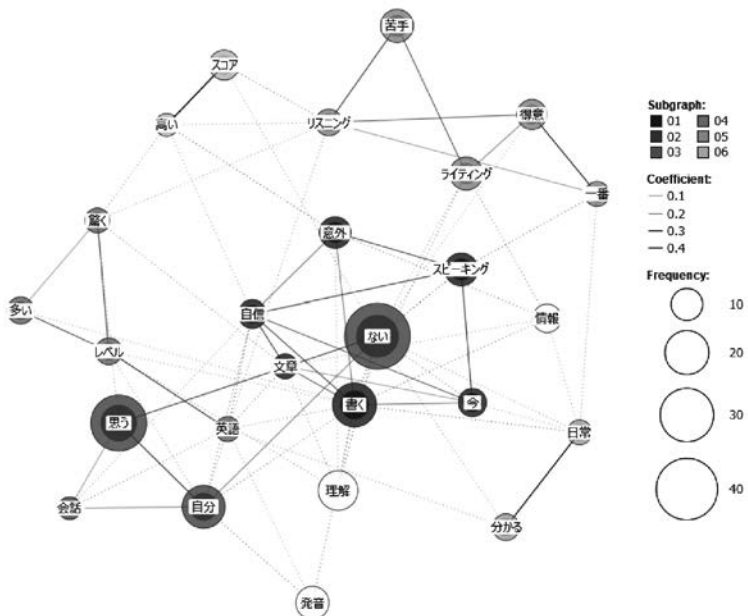


図3 問7の回答の共起ネットワーク (n = 109)

コンセプト：「思っていなかった、会話や文章に関する自分の力が書かれていた」「スピーキングに自信がなかったが意外な結果だった」

実際の回答例：「短い会話でも趣旨が理解できないと書いてあったから。また、できていた方のライティングでも重要な情報を上手く伝えられないと書いてあり意外」「ライティングで、しっかりと読み手に伝わる文章が書けている自信がなかったが、『今できること』の欄に、筋の通った文章を作ることができると書いてあったから」「スピーキングが特に苦手で、自分の中ではそれほど話せている自信がなかったのもう少し頑張れば簡単な英語で幅広く会話ができるようになることが意外」「自分の専門分野の技術的な議論なども含め、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できると書かれていて、自分がそこまでできているのかあまり自信がなかったから」

問 10 では、SC に挙げた「おススメ勉強法と関連情報の中で役立つと思ったことは何か」を尋ねた（図 4 参照）。その結果で見られたコンセプトは以下であり、その点を意識したことがわかる。

コンセプト：「大学生として、書くなどの、スキル別のお勧めの学習や勉強を行う」「音読やシャドーイング、また授業の課題を行いたい」（注：「いろいろ手を出すよりは授業の課題を行った上で新しい教材に取り組む」点は、解説ビデオで述べた点だった）「単語を覚えていないので、覚えたい」「英語の教材や [共通英語の必須課題の] e-learning に取り組もうと思う」「今の状態を知り、スコアの目標を立てたい」

実際の回答例：「English Upgrader+。いろいろなシチュエーション別の表現が載っていたので、それを隙間時間を利用して覚えていきたいと思った」「まずは大学の課題をもっと集中して行うことと、毎日話す、聞くなど体を動かすこと」「目の前の課題をコツコツやること」「単語を覚えるときには発音も確認する」「TOEIC 学習は目標ではなく通過点と考える」「TOEIC の目標設定お助けツールを利用して次回の目標の参考にする」

問 11 では、SC に挙げた「TOEIC スコアを持っていると有利になる仕事と、必要なスコアの例の中で、知らなかったことがあるか、それは何か」を尋ねた（図 5 参照）。その結果で見られたコンセプトは以下であり、英語学習と将来の就職を結びつけて考えることができていたようだった。



コンセプト : 「TOEIC リスニングとリーディングのスコアは、一般企業の就職でアピールになることに驚いた」「国家公務員の採用でも役立つ」

「英語教員試験の免除にも使われることを知らなかった」

実際の回答例 : 「一般企業で英語をアピールするときに必要とされるスコアは知らなかった」「公務員でも TOEIC スコアを持っていると有利になる」

「警察官採用試験で加点があるのは知らなかった」「教員採用試験で一定以上のスコアがあると免除される試験がある」

### 5.3 RQ3 : スコアレポートに基づき、学生はどのような学習プランを立てているか

本節では問 14 を分析した (図 6 参照)。問 13 では、「特に伸ばしたい技能があるか、それはなぜか」を尋ねた上で、問 14 で「特に伸ばしたい技能について、どのような勉強をして伸ばしていきたいか」を尋ねた。得られたコンセプトは以下だった。各自が、SC 活動に基づいて今後自分に必要な活動を挙げており、具体的な学習プランの設定につながったと思われる。

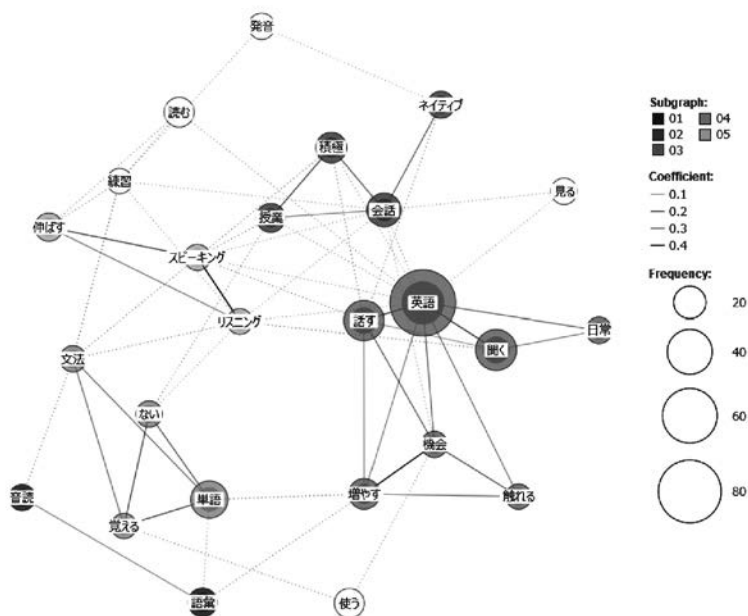


図 6 問 14 の回答の共起ネットワーク (N = 230)

コンセプト：「英語に日常的に触れ、話し、聞く機会を増やす」「ネイティブスピーカーと積極的に授業で会話を行う」「今まで行っていなかった、語彙・文法を覚えて音読を行う」「スピーキングとリスニング、リーディングを伸ばし、発音力を高める練習を行う」

実際の回答例：「日常的に字幕付きの洋画をみて英語に慣れる」「授業中に積極的に英語で発言する、実際に外国人の人（先生など）と会話をする機会を作る」「リスニングは、日常から英語音声を目にする。リーディングは本を読む。スピーキングは英語音声を聞くとともに、授業での会話の機会を大切にする。ライティングは文法の復習をしつつ、何度も文章を書いて練習する」「間違いを恐れずに授業でたくさん英語で発言する。海外の人の SNS で投稿されている文を声に出して読む。分からなくなってもとりあえず英語で話す」「自分の話す英語を聞く機会が今までなかったので、録音してネイティブの発音と聞き比べてみたい」

## 6. おわりに

本研究は、英語 4 技能テストの SC を読み取り、自分の力や学習を振り返る活動を行い、学生はどの程度 SC を理解し、英語の学びにつなげているかを、アンケートの回答分析を中心にまとめた。RQ1「SC を、学生はどの程度正確に読み取れているか」については、ほとんどの学生が結果を正しく読み取れていたが、一部読み取れていない学生も見られた。そのような学生を念頭に置いた支援が必要であろう。RQ2「SC から、学生はどのような気づきを得ているか」については、今までの自分の英語力や学習に対する認識と比較しながら、SC の結果に基づいて自分の強みと弱みを確認している姿が観察された。RQ3「SC に基づき、学生はどのような学習プランを立てているか」については、学生が SC の情報を用いながら、具体的な学習プランを選定していたことがわかった。

本研究の結果により、学生が SC 活動に基づき、自分の英語力や学習の認識を更新していた様子が観察できた。理論上で有効とされる SC 活動の実証的な裏付けが得られたことから、（さらに検証は必要であるが）類似した教育環境においても参照可能な SC 活動の実践につながる可能性がある。また学習のための評価の理論の精緻化に向けた 1 つの証拠を得たと言えよう。



さらに、本研究での SC 活動の運用の利点は、授業外活動として学生が空いた時間にオンラインで取り組めることである。一方弱点は、第 1 に、必須の活動でないために一部の学生は取り組まないことである。今回の回答は全体で約 7 割 (74.19%)、問 7 では 35.16% (109/230\*100) にとどまった。この点をどう改善していくかの検討が必要である。第 2 に、現在は、一部の学生が SC を正しく読み取れていないときにそのままになっており、対策が必要である。意図がさらに伝わりやすいように文言を工夫する、アンケート回答後に正解や解説、モデル回答が提示される設定を作る、さらに情報入力と提示をよりインタラクティブに行うオンラインアプリを作成する (Vezzu et al., 2012) などの方向がある。第 3 に、回答の中には、テスト実施や SC の問題点を指摘する回答もあったが、それに対して応答する仕組みがない。今後考えられる方法は、対面やオンラインでのミーティングや、個別・グループ面談の機会を作ることだろう。これにより、SC 活動に対する意見を直接得ることも、学生間での学びを促すことも可能になる。加えて、同級生の回答や先輩などの英語力を伸ばした好事例を紹介する場を作ることも考えられる。第 4 に、理想的な SC 活動には、「SC 提示と解説」、「直後の振り返りと学習プランの設定」とともに、「定期的な振り返り」、「強みを伸ばし、弱みを克服する学習と指導」が入る。現状では第 2 段階までしか含まれていず、その後の学習につながったかが確認できていない。後半の段階を含めた学習支援システムを作り、必要なサポートが教員や言語教育研究所から受けられ、学生の自律性を高め、自学へ導く方向で検討するのが望ましい。継続的な「学習のための評価」の実施、その中で見えてくる学習・指導の改善、SC を核とする活動の社会への公開などにつなげていくことも重要であろう。

## 謝辞

本研究は、2022 年度清泉女子大学共同研究教育研究助成を受けた。活動に参加してくださった学生や、SC について授業で触れてくださった先生方、コメントをくださった 2 名の査読者など、様々な方々にご支援をいただいた。感謝申し上げたい。

## 引用文献

- Chong, S. W. (2018). Three paradigms of classroom assessment: Implications for written feedback research. *Language Assessment Quarterly*, 15(4), 330-347.  
<https://doi.org/10.1080/15434303.2017.1405423>
- Gebril, A. (Ed.). (2021). *Learning-oriented language assessment: Putting theory into practice*. Routledge.
- Hsieh, C.-H. (2023). *Evaluating the use and interpretation of the TOEIC® Listening and Reading test score report: Perspectives of test takers in Japan* (ETS Research Report, ETS RR-23-02).  
<https://doi.org/10.1002/ets2.12364>
- 上山晋平 (編) (2014). 『授業で使える全テストを網羅！英語テストづくり & 指導 完全ガイドブック』 明治図書
- Koizumi, R. (2016). Feedback on test results to stakeholders. In Y. Watanabe, R. Koizumi, H. Iimura, & S. Takanami (Eds.), *JLTA Journal 2016 Vol. 19 supplementary: 20th anniversary special issue* (pp. 94-98). Japan Language Testing Association.  
[https://doi.org/10.20622/jltajournal.19.2\\_0](https://doi.org/10.20622/jltajournal.19.2_0)
- 小泉利恵 (編) (2022). 『事例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』 大修館書店
- 小泉利恵 (2023). 「令和4年度栃高教研英語部会秋季研究大会講演要旨」 (佐瀬穂香 要旨作成) 「講演スライド」 『令和4年度栃木県高等学校教育研究会英語部会研究集録』, 27, 71-98.
- Koizumi, R., Agawa, T., Asano, K., & In' nami, Y. (2022). Skill profiles of Japanese English learners and reasons for uneven patterns. *Language Testing in Asia*, 12(53), 1-34.  
<https://doi.org/10.1186/s40468-022-00203-3>
- 小泉利恵・濱田彰 (2023). 「『学習のための評価』を理解するための基礎知識」 『英語教育』, 72 (1, 4月号), 42-43.
- 国立教育政策研究所 (2023). 「教育課程研究センター指導資料・事例集 『学習評価の在り方ハンドブック』 『指導と評価の一体化』 のため

の学習評価に関する参考資料 小学校外国語・中学校外国語編・高等学校外国語編』

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

京都大学高等教育研究開発推進センター (2022). 「教育アセスメント」

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/assessment/>

Mercer, S., & Dörnyei, Z. (2022). 『外国語学習者エンゲージメント—主体的学びを引き出す英語授業』 (鈴木章能・和田玲訳). アルク選書 (原著 2020 年発行 *Engaging language learners in contemporary classrooms*. Cambridge University Press.)

文部科学省 (2022). 『高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料』 [https://www.mext.go.jp/content/20220715-mxt\\_kyoiku01-000021347\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220715-mxt_kyoiku01-000021347_1.pdf)

二宮衆一 (2013). 「イギリスの ARG による「学習のための評価」論の考察」『教育方法学研究』, 38, 97-107. [https://doi.org/10.18971/nasemjournal.38.0\\_97](https://doi.org/10.18971/nasemjournal.38.0_97)

西岡加名恵・石井英真・田中耕治 (編) (2022). 『新しい教育評価入門—一人を育てる評価のために [増補版]』 有斐閣

大木俊英 (2018). 「テキストマイニング—大量の記述式アンケートを分析する」 平井明代 (編) 『教育・心理・言語系研究のためのデータ分析—研究の幅を広げる統計手法』 (pp. 258-285). 東京図書

Sawaki, Y., & Koizumi, R. (2017). Providing test performance feedback that bridges assessment and instruction: The case of two standardized English language tests in Japan. *Language Assessment Quarterly*, 14(3), 234-256.

<https://doi.org/10.1080/15434303.2017.1348504>

Vezzu, M., VanWinkle, W. H., & Zapata-Rivera, D. (2012). *Designing and evaluating an interactive score report for students* (Research Memorandum, ETS RM-12-01). Educational Testing Service. [https://www.ets.org/research/policy\\_research\\_reports/publications/report/2012/jdvf](https://www.ets.org/research/policy_research_reports/publications/report/2012/jdvf)

Wicking, P. (2020). Formative assessment of students from a Confucian

heritage culture: Insights from Japan. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 45(2), 180-192.

<https://doi.org/10.1080/02602938.2019.1616672>

Zapata-Rivera, D. (Ed.). (2019). *Score reporting research and applications*. Routledge. <https://doi.org/10.4324/9781351136501>  
(Open access)

Zenisky, A., & Hambleton, R. (2016). A model and good practices for score reporting. In S. Lane, M. Raymond, & T. Haladyna (Eds.), *Handbook of test development* (2nd ed., pp. 585-602). Routledge.

付録 1 学生向けアンケート（本研究の分析対象の問いのみ。選択式・記述式・必須回答の別を記載。イタリックは選択肢を示す）

**TOEIC Score Report の活動 2022**

この活動は、スコアレポートをダウンロードし、その解説ビデオを「見た後」に、取り組んでください。

スコアレポート：「学びの泉」の、金曜日 1 年生英語授業の「マナビ」  
「スコアレポート」からダウンロード または メールかポータルでダウンロード

ビデオの URL：(略)

以降の質問は、TOEIC スコアレポートの中身をよく知り、自分の英語力や今後の英語学習を考えるために行います。自分の TOEIC スコアレポートをよく読んだり、調べたり、考えたりしながら、この Google Forms に回答してください。

回答内容は、成績や単位修得には関係ありませんが、よく考えて回答するようにしてください。

テストを受けなかった場合には、スコアレポートに「スコアなし」と出ています。情報があるところについて、読んで答えてください。(以下略)

締め切り：6 月 24 日（金）23:59

問 1 スコアレポート 1 ページ目の「☆全体の結果」には、4 技能の CEFR レベルが書かれています。あなたのリスニングの CEFR レベルは何でしたか？あてはまるものを一つ選んでください。(選択式、必須回答)  
*C1、B2、B1、A2、A1、A1 未満、スコアなし、わからない、その他 (記述)*

問 2 リスニング以外の CEFR レベルや、次の CEFR レベル到達に必要なスコアなど、他の情報についても確認してください。さて、4 技能の CEFR レベルについて、あなたの結果の中で、CEFR レベルが一番高く、得意だった技能は何ですか？あてはまるものを全部選んでください。(全部同じレベルのときには、4 技能全部を選ぶ) (選択式、必須回答)  
*リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、わからない、その他 (記述)*

問 3 あなたの結果の中で、CEFR レベルが一番低く、苦手だった技能は何ですか？あてはまるものを全部選んでください。(全部同じレベルの

ときには、「なし」を選ぶ) (選択式、必須回答) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、なし、わからない、その他 (記述)

問4 あなたのCEFRレベルを見て、どう思いましたか? (例: 意外だった、予想通りだった) その理由はなんですか? (記述式、必須回答)

問5 スコアレポート1ページ目の中央にある「☆結果からわかること」に進んでください。最初に、Listeningに関して「今できること」「もうひとがんばりで、できるようになること」「今のListening熟達度レベル」が書いてあります。「今のListening熟達度レベル」の特徴については、スコアレポートの4~5ページに詳しく書いてあります。自分のレベルの特徴(長所・弱点)の説明が見つかりましたか? (選択式、必須回答)

見つけた、見つからなかった、その他 (記述)

問6 「☆結果からわかること」には、Listening以外にも、Reading、Speaking、Writingについても「今できること」「もうひとがんばりで、できるようになること」「今の○○熟達度レベル」が書いてあります。それぞれについて、解説を探して読んでみてください。特に、「☆結果からわかること」の「今の○○熟達度レベル」の特徴の解説は、4~12ページに書いてあります。さて、「☆結果からわかること」に関わる箇所を全部読んだところで、教えてください。「☆結果からわかること」などに書いてある内容について、「意外だな」と思った技能はありましたか? あてはまるものを全部選んでください。(選択式、必須回答) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、なし、わからない、その他 (記述)

問7 上で「意外だな」と思った技能について、なぜそう思いましたか? (記述式、任意回答)

問8 「☆結果からわかること」などに書いてある内容について、「予想通り」だった技能はありましたか? あてはまるものを全部選んでください。(選択式、必須回答) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、なし、わからない、その他 (記述)

問9 上で「予想通り」だった技能について、なぜそう思いましたか? (記述式、任意回答)

問10 次に、スコアレポート2ページ目の「☆おススメ勉強法」と関連の情報を読んでください。そこに書いてあったことで、役立つと思ったこと、これから行ってみようと思ったものはありましたか? あったら書いてください。(記述式、任意回答)

問11 スコアレポート2ページ最後と、13ページの「☆TOEICスコアを持っていると有利になる仕事と、必要なスコアの例」を読んでください。今まで知らなかったことは書いてありましたか? あったら書いて

ください。(記述式、任意回答)

問 12 スコアレポート全体や関連情報を読んだ後に答えてください。あなたは、これからどの技能を、特に伸ばしたいと思いますか？あてはまるものを全部選んでください。(選択式、必須回答) リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、なし、わからない、その他(記述)

問 13 特に伸ばしたい技能について、あなたは「なぜ」それを伸ばしたいですか？(記述式、必須回答)

問 14 特に伸ばしたい技能について、あなたは「どのような勉強をして」伸ばしていきたいですか？(記述式、必須回答)

問 15 他に、このスコアレポートや英語学習に関して、何か感想や意見、質問はありますか？あったら書いてください。(記述式、任意回答)

## 付録 2 KH Coder での設定

- ・「語の取捨選択」における強制抽出する語リスト(抽出語リストを検討して作成)

英検 熟達度 ホット 気にして 気を付け 気にせず リピート ワンランク

- ・記述式における誤字・脱字・語のゆらぎの統一例(最終的に採用したもの)

半角英数字(全角英数字でなく) 一番(1番でなく) 分かる 話す 予想通り 慣らす 書かれて 低かった 無し 見たり 聞く(きく・聴くでなく) 見る(観るでなく) 気付ける 習慣付ける できる 出た 知る 全て 最も 上手く 日頃 他(「ほか」でなく) ととも(「すごく」でなく) スコア(点数でなく) スピーキング(speakingでなく) リスニングとリーディング(L & R) TOEIC [共通英語必修科目の必須課題として使用されている] e-learning(イーラーニング、elearningでなく) EnglishCentral(English Central, イングリッシュセントラルでなく) GoLive([地球市民学科で必須教材として使用されている EnglishCentral の機能の] GOLIVE, Golive, ゴーライブでなく)、Medium(ミディアムでなく)

